

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	三浦正雄

授業の概要

教育の現場において、正しい日本語表現能力は、必要不可欠のものです。
＜日本語の運用＞では、教育者として必要な正しい日本語表現を、「学習指導要領」等に示されているように、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの分野から具体的に学習し、最終的には論文を書くことへとつながるように指導します。高等学校の国語科の復習をし、正しい日本語表現に興味を持ち、基礎から身につけることが目標です。同時に、言葉についての様々な知識や書籍についての情報なども講義します。全員が、スピーチの実演を行えるように指導を行います。
＜文章作成法＞に接続する形で授業を行います。

授業の問題点

今期もオンラインでの授業が多く、学生との双方向のやり取りが難しいと感じました。「日本語の運用」を学習するには15回の授業でも少ないと感じられ、できるだけ重要なポイントに絞ることを心がけていますが、中学・高校で学ぶ文法や文章作成の基礎事項が身につけていなかったり、携帯・パソコンの多用により語彙力や語義の知識が定着していなかったりなど、土台固めを行う必要がその都度生じてまいります。そのために、どうしても中学・高校の国語科の学習内容を復習する時間が必要となります。その結果、スピードが速くなることがあり、速すぎないように進めることが課題ですが、最近のアンケート結果を見ると、適度なスピードでできてきているようです。
スピーチについては、いつも学生が熱心に取り組んでいるので、少しでも原稿を書くために調べやすいように、書きやすいようにアドバイスをしています。
コロナにより、対面授業においても、学生のコメントが得にくいのが難点です。

学生の授業満足度

オンライン課題が多いため質問への対応が非常に難しかったと思います。文字による伝達ですと、ニュアンスが伝わりにくいと感じました。
また、対面授業においても回数が少ないため、学生のコメントが得にくく、双方向が難しくなっておりますが、その割には、意思疎通があったと思います。
大人数であるうえに、オンライン課題と少ない対面授業という授業形式の中で、満足度を上げるのは難しいところもありますが、双方向的な要素を少しずつでも増やすことができればと思います。

授業改善の課題と方策

オンライン、そしてプリント等のやり取りを減らした対面授業ということで、学生との双方向のやり取りが難しくなっています。こうした中で、学生のコメントを得るための何らかの方法を、今後は模索してゆきたいと思います。
本年、新たにオンライン課題内にコメントを書く欄を設置しました。

その他

全学共通科目であるだけでなく、教職課程・保育士養成課程の選択必修科目ですので、可能でしたら私の担当の時間は子ども発達学科に限定した形にさせていただけると内容をしぼった形で授業が展開しやすいと存じます。